



イギリス

グラスゴー大学医学部

School of Medicine, Dentistry and Nursing

The University of Glasgow



●学部学生 24,200人 ●大学院生 14,000人 ●教職員 5,800人

ホームページ <https://www.gla.ac.uk/schools/medicine>

交流協定締結年月日：2025年1月14日 主管学部：医学部



Glasgow Royal Infirmary



The Wolfson Medical School



University of Glasgow

国際交流の特色

グラスゴー大学（University of Glasgow）は、イギリス（スコットランド）グラスゴー市に本部を置くイギリスの国立大学である。1451年に設置された500年以上の歴史を有する英語圏最古の大学の一つであり、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学と並ぶアンシャン・ユニヴァシティーに属する大学である。中世から高位聖職者を輩出し、近世では、蒸気機関の発明や電力単位のワット（W）で知られるジェームズ・ワット、経済学の祖であり国富論を著したアダム・スミスなど歴史上の重要人物も多く輩出している。Glasgow Coma Scaleの名で世界に知られている医学部Wolfson Medical Schoolは、医学、歯学、獣医学の分野で英国最高峰に位置している。香川大学医学部とは交流は2011年より開始し、令和7年1月に部局間交流協定を締結した。

交流実績（令和6年度）

受入・派遣	年度	R6
学生の受入		0
学生の派遣		0
研究者・職員の受入		0
研究者・職員の派遣		0
オンライン交流参加者（本学）		0
オンライン交流参加者（相手機関）		0



2017年 Perera先生ご夫妻とPaul先生 2016年派遣 学生とPerera先生夫妻

学生からの声

2016年 グラスゴー大学医学部への派遣学生より

グラスゴーでの研修は非常に刺激的で楽しいものだった。もちろん言語に関して言えばグラスゴー訛りと臨床英語という二つの壁を乗り越えなければならなかつたし、慣れない場所で毎日誰か新しい人に出会い、日本とは大きく異なる英国の医療を学ぶのだから、常に頭をフル回転させていなければならなかつた。しかし、グラスゴー滞在中につけっていた日記には、

「全然疲れないし楽しい、何で！」という一文があり、帰国後に留学を振り返っても、本当に楽しく充実した日々だったと感じる。グラスゴーの温かい人々のおかげで非常に実のある研修となり、留学前よりもさらに産婦人科医の仕事のやりがいや魅力を感じるようになった。

英国と日本の医療現場における違いを多く経験できたことが、この留学での最大の収穫だったと思う。日本での臨床実習を通して私が作り上げていた常識は留学中に何度も覆された。しかし私にはそれが非常に興味深く感じられ、逆に医師として本当に大切にしなければならないことは、英国でも日本でも共通しているはずだ、どちらの方に目を向けるようになった。この留学で得た経験を糧に、医療をより幅広い視野で、そして本質的にとらえることができる医師になりたいと思う。

教員からの声

グラスゴー大学は500年以上の歴史を有する英語圏でも最古の大学の一つであり、例えば日本人では高峰譲吉や竹鶴政孝など、歴史的な人物を多数輩出してきました。キャンパスはそうした歴史を感じさせる重厚な雰囲気に満ちています。香川大学医学部との交流は、2009年に教員によるThe Wolfson Medical School訪問から始まり、それ以来、多くの医学部学生を受け入れていただいています。また、グラスゴー大学医学部にはブルネイ・ダルサラーム大学出身の学生も在籍しています。友人と再会し、ともに勉学に励むことができるかもしれません。最近、複数あった附属病院を一つにまとめ、新たに1667床のクイーンエリザベス大学病院が設立され、さらに充実した環境で学ぶことができます。数年前から英語要件が大変厳しくなりましたが、それでも難関を乗り越えて留学を果たした学生がいます。コロナ禍によって一時派遣を中断せざるを得ませんでしたが、漸く令和6年度に双方方向の学生交流推進を柱とする交流協定締結が実現し、令和7年には2名を受け入れ、1名を派遣できる見込みで、今後の大幅な交流拡大が期待できます。医学科生諸君には、ぜひ伝統あるグラスゴー大学医学部派遣に挑戦して欲しいと考えています。

医学部国際交流委員会委員・教授 和田健司

医学科6年（派遣時） 西本真由子